



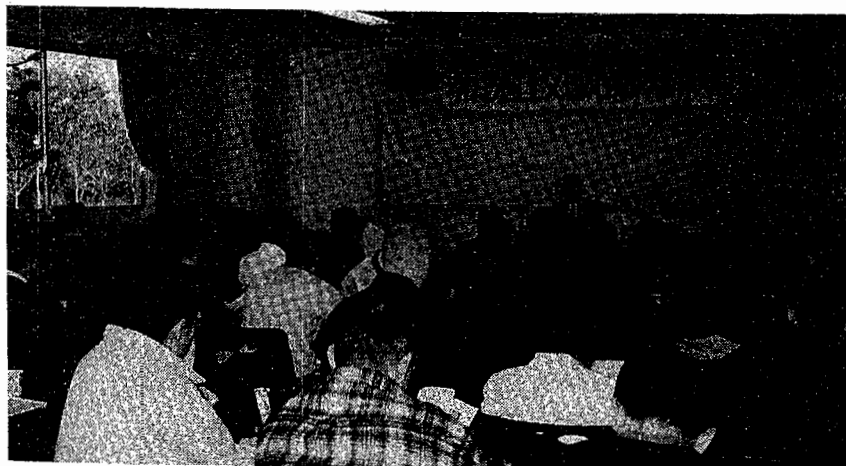
月刊 千葉労働者

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番
(公) 043 (222) 7207 番

95.1.24 No. 4130

労働者は闘わなければ生きていけない



オ三三回活動家研 修会開かれる。

戦後五十年新たな闘いへのオ一歩へ

敵の激しい思想
攻撃に打ち勝つ
理論武装を！

中野委員長・学習の重要性強調
第三回全支部活動家研修会は、伊豆大川「リゾート伊豆」に全支部から支部三役・本部執行部等が出席し、真剣な学習を行なってきた。

冒頭、中野委員長は、「戦後五〇年目の現在、政財界は激しい主張・思想攻撃に出ている。それに打ち勝つ理論形成が必要。

兵庫県南部地震は、色々な面
日本(資本主義体制)のモロさを突き出している。激動の九五
年を象徴しているかのようだ。
時代の大転換を見据え、その根
底に何があるのかをしつかり捉
え、新たな闘いに進もう」と訴
えた。

九五年の勝利に
向けて四つの課
題を確認！

- 田中書記長・基調提起
講演に先がけ、田中書記長から九五年の闘いの基本方向が提起された。情勢の中では「国労・政府の『一二・二四合意』の狙いは、亀井運輸大臣・自民党による国労の取り込み、国鉄闘争の幕引き攻撃として見据え、攻撃を逆手にとって新たな闘いを構築しよう」と、九五年の以下の四つの課題を提起した。
- (1) 「新しい潮流」運動の全面的発展をかちとろう！
- (2) 清算事業団闘争の幕引きを許さず闘う！
- (3) 「JR体制」の反動的再編攻撃を打ち破る強固な体制を創ろう！
- (4) 水野、中江選挙必勝しよう！

講演

大失業下の
攻撃をはね
返す闘いを

片倉秀夫さん(評論家)の
講演で時代認識を深める！

第一日目の講演は、「大失業時代の到来と階級闘争」というテーマで評論家の片倉氏が熱弁された。

冒頭、兵庫県南部地震について、「政府はこれをテコにして危機管理体制を強め、有事体制の確立に突き進もうとしている。被災者の苦難を受けとめ、同時に九五年攻撃・戦争体制作りを絶対に阻止しなければならぬ」と強調され、そのうえで、大失業時代の事実を具体的に暴露し、「労働者を喰わせていけない」といったことは、資本主義社会としての生命力を失ったということだ。労働者が生きていくためには、資本主義体制を打倒することが根源的に問われている。」と言いつつ、「大失業時代とは単なる経済的問題ではなく、ましては不可抗力的『天災』ではない。資本主義は、自らが生き延びるために全ての犠牲を労働者に転嫁する攻撃として捉えることが重要」「規制緩和攻撃は、分割・民営化の全産別・全社会への拡大である。国鉄闘争の意義・真価がいよいよ発揮される時」と動労千葉・国労組合員の不屈の闘いの重要性を強調した。まさに、闘わなければ戦争への道、労働者見殺しへの道であることが、判りやすく提起され、活発な討論を経て、現在の攻撃の本質を見極め、九五年の闘いを展開することが確認され、第一日目の日程を終了した。

二月五日

家族会総会

十三時

千葉市

社会セミナー

二月九日

事業団判決

十時

東京高裁

八二四号法廷

二月十五日

オ三三三回定期

委員会

十三時

市民会館